

去年、お茶の水女子大学構内で「おおぐま座ふくろう星雲（M97）」の撮影に成功しました。しかしさすがに都心の夜空は「街明かり」が著しく、「光害に強い」といわれる「Seestar（天体写真儀）」を持ってしても、あまり満足のゆく写真は撮れませんでした。そこで今年に入った1月上旬、空のきれいな北軽井沢で、もう一度撮影に挑みました。

この日は快晴、シーイング（空の透明度や大気安定度）も抜群で、絶好の天体写真日よりでした。しかし気温は -10°C でなかなか過酷です。ただ、Seestarは数メートルの距離なら、機器から離れていても操作可能なのが強みです。機器は屋外、操作は車内でできたので、全く苦になりませんでした。

ふくろう星雲は、北斗七星の「柄杓の底」にあります。1月上旬だと北斗七星の地平高度が低く、高度が10度以上に上がる夜10時ぐらいまで待つ必要がありました。そして撮れたのがこの写真です。東京では「何となくふくろうの2つの眼に見えるかな？」という程度の写りでしたが、今回は「ケッコー、フクロウ！」って感じに写りました。しかし、ふくろう星雲は惑星状星雲の中では、視直径が小さい部類なので、解像度はこれが限界です。もう少し大口径（高分解能）の機器が欲しくなりました！

(2025年1月上旬／北軽井沢／Seestarで撮影)

